

JFES Newsletter

Secretary
E-mail
Phone
Fax

Osamu Osawa
oosawa@slb.com
(81-3) 3434 7230
(81-3) 3434 7252

Japan Formation Evaluation Society (<http://www.geocities.jp/ymmiya/>)

No. 57 January 2006

A Happy New Year to all SPWLA Japan Chapter Members!

We had a successful chapter year in 2005 with the support from all the members.
We wish to have another fruitful year in 2006!

The Japan Formation Evaluation Society (JFES) より新年のご挨拶を申し上げます。

昨年は皆様のおかげをもちまして、千葉での第11回検層シンポジウムも成功裏に終了し、よりたくさんの方々に最新の検層研究結果を発表することができました。今後とも国内における活動のみならず、本部及び各国支部との交流も積極的に図って参りたいと存じます。今後も検層を利用される各分野の技術者の情報交換の場として積極的な活動を続けて参りますので、御興味のある方は是非ともご入会戴き、また会員の皆様のご協力をお願い申し上げます。

大澤 理 – Secretary Board

Best paper of the Eleventh Well Logging Symposium

Best paper was selected from 29 papers presented at the Eleventh Well Logging Symposium on October 5th, 6th in 2005. For this selection, Board members had reviewed every paper on November 29th, 2005. The testimonial will be given from JFES to him later.

Author of Best paper : Koji Yamamoto, Masato Yasuda, Masaru Nakamizu (JOGMEC), Koji Kusaka, Khong Chee Kin (Schlumberger)

Title : Application of Wireline-Conveyed Through-Casing Formation Tester to Methane Hydrate Research in Japan

Invitation to 55th Chapter Meeting

We would like to announce that the forthcoming Chapter Meeting will be held as follows. Please inform Mr. Oda by E-mail (hiroshi-oda@aist.go.jp) on your availability by January 26th. For Application, please see below.

Venue : AIST. (産業技術総合研究所)
第7事業所 (海洋別棟大会議室)
茨城県つくば市東1-1-1 中央第7
Tel 029-861-3704
Contact: Mr. Hiroshi Oda
(*Please see the instruction below*)

Date: Friday, February 3rd, 2006

Program: *Presentation will be given in Japanese

予定:

14:30-15:30 地質標本館見学

15:30-16:00 実験室見学

16:00-17:30 講演会

17:30-19:00 懇親会

講演会:

松林 修(産業技術総合研究所 地圏資源環境研究部門 燃料資源地質研究グループ長)

「Geothermicsの基礎としての地層熱物性について」 30分

地層の熱的物性については、地熱や油ガスの貯留層探査や資源評価をはじめエンジニアリング分野において長い歴史があり、また地球深部の温度場を研究対象とする地殻熱流量測定のために世界の各地で記載的なデータが蓄積されてきた。演者は、地層比抵抗・弾性波速度などのスタンダードな物理的な観測と熱的物性とを対比する問題に特に興味を持ち、メタンハイドレート層などにおける両者の関係を物理的に説明するモデルを確立すべく、野外での地層温度データの取得および実験室的研究を行ってきた。この仕事は必ずしも高温の地熱を扱うものではないがGeothermicsと称することができるだろう。」

森田 澄人(産業技術総合研究所 地圏資源環境研究部門)

「熊野海盆泥火山群へのアプローチ」 20分

プレート収束帯では圧縮応力場や高堆積速度場の形成のため、しばしば泥ダイアピルが観察される。地層内に発生した高間隙水圧コンパートメントでは、地層の破壊、さらに流動化が起こり、砕屑物を伴った流体は含礫泥としてダイアピルを形成すると考えられる。これらは上位または側方の地層へ貫入し、さらに地表または海底に噴出したものは泥火山の形成に至る。近年、私たちは熊野海盆の泥火山群を主な対象として、様々な地球物理学のおよび地質学的手法を試みながらその概容を明らかにしてきた。今後、泥ダイアピルの活動履歴を明らかにすることを一番の目的として深海掘削研究を立案中である。

小田 浩・鈴木祐一郎・徳橋秀一(産業技術総合研究所 地圏資源環境研究部門)

「Well logging interpretation of coal beds in Yubari coalfield (石狩層群夕張層の石炭層における検層解析)」 20分

かつて国内最大の産炭地であった北海道石狩炭田には、古第三系石狩層群の夾炭層が広く分布している。また苫小牧沖の勇払油ガス田の成功や基礎試錐「三陸沖」での石炭起源天然ガスの産出によって、石狩層群のみならず本邦の石炭が、石油・天然ガスの根源岩として新たに注目されている。本講演では、夕張市シューパロ湖岸で掘削された石狩層群夕張層を実例にして、検層ツールを用いた夾炭層の認定と堆積サイクルの解析について述べる。夾炭層のガンマ線強度、密度、比抵抗のデータからは夾炭層の認定、ガンマ線強度の周期解析によって構造運動と海水準変動に伴う数十万年から数万年オーダーの堆積サイクルの解析を行うことができる。

●ご参加方法

下記フォームをメールにて、**平成18年1月26日(木)迄**に担当者(小田 浩:hiroshi-oda@aist.go.jp)までお送り下さいますようお願い申し上げます。

地質標本館見学	:参加希望する	参加希望しない (地質標本館入口集合)
実験室見学	:参加希望する	参加希望しない (第7事業所玄関ロビー集合)
講演会	:参加希望する	参加希望しない (海洋別棟大会議室)
懇親会	:参加希望する	参加希望しない (中央食堂2F、会費1,000円)

連絡先:

産業技術総合研究所 地圏資源環境研究部門

燃料資源地質研究グループ

小田 浩

〒305-8567 つくば市東1-1-1 中央第7

TEL: 029-861-3704(研究室), 3860 (PHS)

●行き方: 下記URLをご参照下さい。

http://www.aist.go.jp/aist_j/guidemap/tsukuba/tsukuba_map_main.html